

# 4-9

## ケース記録の見直しと情報の共有化に取り組んで

読みやすい、分かりやすい、記録でリスクマネジメント

情報の共有化

データ活用とリスクマネジメント

東京都板橋区立特別養護老人ホーム みどりの苑

生活相談員 金澤 香	看護師 小野 みどり
東京都板橋区前野町5-9-3	生活相談員・村田 美紀、ケア-カ・亀井 希、金子 正士
TEL : 03-5994-5925	E-mail : kana-kao@midorinosono.com
FAX : 03-5994-5977	URL : <a href="http://www.midorinosono.com">http://www.midorinosono.com</a>

今回の発表の施設 またはサービスの 概要	平成2年開設。入所定員80床(ショート6床含む)平成18年より指定管理者として当法人が継続して運営。平成17年12月頃よりケース記録を見直し、平成18年4月より毎月、ご家族へのケース記録送付を開始した。
----------------------------	---

### 〈取り組んだ課題〉

- ・ ケース記録の書式、内容、活用方法などを根本的に見直した。
- ・ 利用者の施設での生活を知って頂き、安心と信頼に繋がるよう、ケース記録を毎月、ご家族に送付することとした。その結果、利用者の普段の様子や介護状況などをご家族に知って頂くことで、ケアプランへの理解や事故発生時などのご理解に繋がった。

### 〈具体的な取り組み〉

- ・ 平成17年12月頃より「記録委員会」を立ち上げ、それまで紙ベースで作成していたケース記録と申し送りを全面的に見直す。
- ・ 見直しの基本は記録のPC化。
- ・ それまでは各職種が別々の様式に記録を行っていたものを一元化して、情報の共有化を図った。
- ・ PC化に伴い、LAN環境の整備とPC台数の増加を行なった。
- ・ 家族へ送付することを前提とした記録書式や内容の見直し。(専門用語を使わない。不快感を与えない)
- ・ ケース記録をデータとして活用するために、書式や記録内容の検討を行なった。(具体的な記録内容)
- ・ 記録内容や入力のルールを整備した。(各職員の観察の視点を統一化することでデータとしての有効性を高める)
- ・ 個人情報保護と情報開示を念頭に置いた記録内容の検討。

### 〈活動の成果と評価〉

- ・ 情報の共有化と業務省力
- ・ データ分析がスムーズになり、根拠に基づいたケアの見直しができる。
- ・ 現在、特別養護老人ホーム入所者74名の内、50名のご家族に毎月、ケース記録を送付している。
- ・ ご家族の反応は概ね良好でケアへの積極的なご意見も聞かれるようになった。
- ・ 事故発生時にもご家族のご理解を得られやすい。
- ・ 統一された記述ができるようになり、ご家族にも読みやすく、分かりやすい記録となった。
- ・ 個々の記録時間は短縮され、職員の情報確認も一元化できたことで業務省力が進み、伝達漏れが少なくなった。

### 〈今後の課題〉

- ・ 記録のルールを全職員が遵守できておらず、PC入力の苦手な職員もいるため、更なる研修が必要。
- ・ 日常ケアの中での気づきを記録に反映させる能力にバラつきがあり、更なる研修が必要。
- ・ 体調変化や課題、認知症による不応行動などマイナス面での記録が中心になりがちで、今後は日常の楽しみなどプラス面での記録も必要。
- ・ 記録全体にかかる時間の更なる短縮。

### 〈参考資料など〉

『よくわかる介護記録の書き方』(著:富川 政美 メチカルフレンド社)

## 【メモ欄】